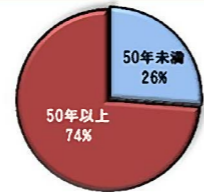
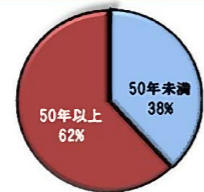
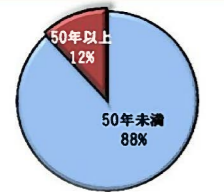
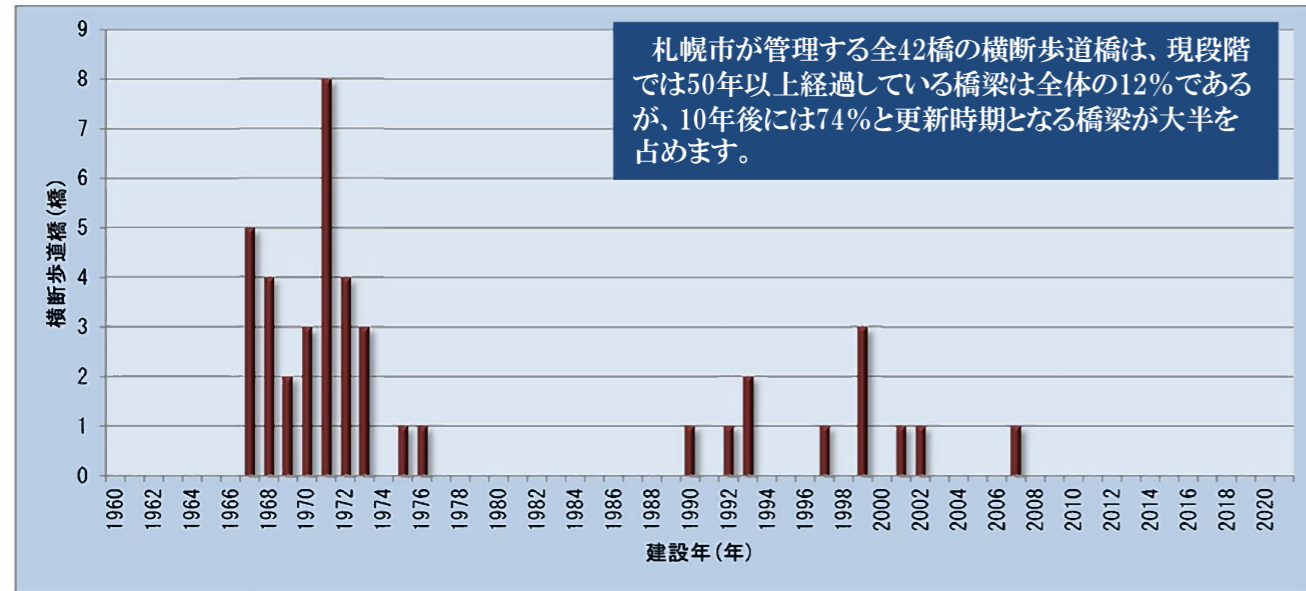


1.横断歩道橋の現状～今後について



2.計画対象横断歩道橋のグループ分け

■今後適切な維持管理が行われるよう、重要度別に4つのグループに分けました。そのグループごとに、維持管理レベルを設定し、横断歩道橋の長寿命化に向け補修計画を策定します。

表.1 グループと維持管理レベルの相関性

重要度	グループ	適用条件	歩道橋数	目標供用年数	維持管理レベル
高	①	上屋がある横断歩道橋	5橋	100年以上	予防保全
	②	20,000台以上の交通量を有する道路上の横断歩道橋	5橋		
	③	市電上の横断歩道橋	4橋		
	④	上記以外の横断歩道橋	20橋		
低	④	利用者が少ないなど撤去の可能性がある横断歩道橋	5橋	60年以上	事後保全

3.補修工法の設定

表.2 維持管理レベル毎の標準補修工法

部材	予防保全	事後保全
路面	ゴムチップ舗装 + (ロードヒーティング+床版防水) ※	
	高欄	部分塗装 (3種ケレン)
	排水装置	部分塗装 (3種ケレン)
	主桁	部分塗装 (3種ケレン)
上部工	横桁、横構	部分塗装 (3種ケレン)
	床版	部分塗装 (3種ケレン)
昇降部	主桁	部分塗装 (3種ケレン)
	蹴上げ部	部分塗装 (3種ケレン)
	鋼製橋脚	部分塗装 (3種ケレン)
	コンクリート	断面修復/ひび割れ注入
		断面修復/ひび割れ注入

※ グループ①は上屋があるため、ロードヒーティングと床版防水は行わない。

4.補修対象横断歩道橋の優先順位

■横断歩道橋の定期点検を行った結果、健全性IVのものはなく、補修工事を行わない健全性Iの横断歩道橋は2橋ありました。残り37橋は健全性IIまたはIIIでした。優先順位付けしたものが下記の表です。

横断歩道橋単位の健全性

表.3 補修対象横断歩道橋の健全性と優先順位

健全性	重要度	優先順位マトリクス							
		予防保全				事後保全			
		グループ①	グループ②	グループ③	グループ④	グループ①	グループ②	グループ③	グループ④
悪	IV	—	—	—	—	[1]	[2]	[3]	[4]
	III	1橋	1橋	4橋	0橋	[5]	[6]	[7]	[8]
	II	3橋	8橋	16橋	4橋	[9]	[10]	[11]	[12]
良	I	1橋	—	—	1橋	—	—	—	—

5.補修計画の効果

■補修計画の対象期間は、平成31年度(2019年度)～平成40年度(2028年度)の10年間とします。  
■予防保全などの計画的な維持管理を基本とした補修計画の実施により、対症的な維持管理と比較して50年間で約21億7千万円のコスト削減効果があると試算しています。

(単位:千円)

(単位:億円)

